

13.総括表

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	別副会 福祉の森	代表者	北地 輝昭	法人・事業所の特徴	高齢者の自立を支えるための豊かな環境づくりと地域社会との連携を重視し、利用者の尊厳を重視した、地域コミュニティの核を目指す取組みを推進している。
事業所名	両郡橋事業所	管理者	貞山 智絵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名	0名	3名	0名	0名	1名	0名	4名	2名	11名

項目	前回の改善項目	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A 事業所自己評価の確認	・職員間での情報の共有と更なるスキルアップを計画的に行う。	・毎月の研修会や勉強会を実施、必要に応じてリアルタイムな指導・教育を行える様になったが受身の姿勢があり、積極性に欠ける問題がある。一方、定時ミーティング等の情報共有の推進が安定的にできるようになった。	・良く、コミュニケーションが取られていると感じた。 ・改善の成果が出ていると感じました。 ・継続的に実施することが、大事な事だと思った。 ・良い方向に進んでいると感じた。 ・その場での意思疎通は大変、重要な事だと思いました。	・スタッフの質(スキル)を向上させる教育、勉強会への参加をスタッフ個々に計画させ、学習テーマ毎に担当者を決めて、主体的に学習するための環境を構築する。
B 事業所のしつらえ・環境	・前回、出来なかったイベントや地域への研修を行う。 ・建物、外回り等の環境整備を図る。	・イベント開催や地域行事への積極的な参加を行ったが、まだ充分ではなかった。 ・実施計画を策定中であるが、具体的な行動計画には至っていない。	・校区が広いので、難しい事は理解できません。 ・優先順位をつけて活動をして見てはどうか。 ・両郡橋地域には、良く協力して頂いています。 ・できる事から、少しずつでも活動する事を期待します。	・事業所外の地域イベント等へ、今期以上の参加を推進させるために、地域等で行われるイベント等の事前情報を積極的に収集し、事前調査・検討を行い、地域住民との交流を深める。また、建物(南側)スペースを利用した、ガーデンエリアを完成させ、そのガーデンエリアでくつろげるようにする。
C 事業所と地域のかかわり	・地域の防災・避難訓練等に参加すると共に、地域活動における拠点化を目指したい。	・地域の避難訓練等に参加する事が出来たが、充分とは言えず、課題が残った。また、地域活動の拠点化も具体化には至っていない。	・個別では、訓練等に参加して頂いています。 ・災害範囲が見直されているので、この点も考慮が必要。 ・必要ツールの調査・検討が改めて必要なのではないか。 ・地域の防災拠点になる事を期待しています。	・地域とのかかわりあい(連携・協働)を積極的に推進するとともに、地域への活動計画が考慮された年間スケジュールを検討し、活動に反映させる。
D 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域の困りごと、相談等も民生委員・児童委員の協働で取り組む。	・意見交換等、交流は出来るようにはなってきたが、協働で問題解決に至るまでのレベルには達していない。	・校区が広いので、難しい事は理解できません。 ・優先順位をつけて活動をして見てはどうか。 ・できる所から、やっていくしかないのではないか。	・広域に散らばるご利用者の優先度を分類し、民生委員・児童委員と協働する活動計画に継続して取り組む。
E 運営推進会議を生かした取組み	・地域の声を聴く機会でもある運営推進委員会を更に強化し、家族会の結成を図る。	・家族会の結成に向けた、アクションプランの計画策定進行中であり、来期早々に家族会結成に向けた、活動計画まで来た。	・来年度の活動に期待しています。 ・少しずつではあるが、前進していると感じた。 ・独居の高齢者が増えているので、対応が複雑化している。	・運営推進委員会で得られた情報を基に、家族会と協力した活動の仕組み作りを強化して行く。
F 事業所の防災・災害対策	・地域との避難訓練等を積極的に行うと共に、職員個々の意識を高める。	・地域の避難訓練等に参加する事が出来たが、充分とは言えず、課題が残った。	・地域の防災拠点としての機能化を期待しています。 ・小火があり、職員がすぐに対応してくれて、感謝している。 ・大規模災害に対する、備えが必要なのではないか。 ・備品の備蓄等の調査・検討が必要なのではないか。	・現状の防災計画を見直すため、地域防災計画と事業所防災計画の比較調査を行い、共通する項目等については、お互いに協力した対応ができるように考慮された防災・災害対策を検討し、反映させる。